

1、墨跡「瑞石山」「永源寺」 寂室元光

(一一九〇)～(一二六七) 南北朝時代 紙本墨書  
三三・三三×七八・一cm 三三・四×四・〇cm  
重要文化財(永源寺文書) 永源寺蔵



寂室元光は、美作国(岡山県)に生まれ、若くして仏門に  
帰依し、禅の教えを志した。鎌倉禅興寺の約翁徳俊を師と仰ぎ、  
中国・元へ渡海し、中峰明本に参謁し、寂室の号を与えられた。  
帰国後、近江国守護・佐々木六角氏頼の庇護を受けて、永源  
寺を開創した。  
本作は、山号の「瑞石山」と寺号の「永源寺」の大字墨書。  
康安元年(一二六一)の永源寺開山時の山号「飯高山」(作品  
No.2)は、後にこの「瑞石山」へと変わる。「瑞石」は、後門  
の壁の下に置かれた霊石のことで、『開山紀年録』に詳しい。  
また、「永源寺」は、寂室に帰依した六角氏頼の法名「崇永」  
の「永」と、佐々木六角氏の姓氏である源氏の「源」をとつ  
たものだという。

2、墨跡「飯高山」 寂室元光

(一二九〇)～(一二六七) 南北朝時代 紙本墨書 三四・〇×八四・三cm  
重要文化財(永源寺文書) 永源寺蔵



「飯高山」の山号は、寂室元光が永源寺を開山した時の山号で、永源寺北にひろがる荒野山の別称であ  
る。作品No.1と共に、寂室元光の威風堂々とした楷書で、見る者の目を惹き付ける力がある。  
本作は、外題部分の墨書から、寛文五年(二六六五)九月、如雪文岩の永源寺住持の時に、彦根藩家老・  
木侯守安が寄進したもの。木侯守安は同八年(二六六八)にも永源寺へ古文書を寄進しており、有力な  
支援者であった。